

Once upon a time in Utsunomiya

一枚の絵葉書から 第55回 石井敏夫コレクションより

三層の天守閣を持つ
建国記念館全景



建国記念館と 宇都宮行在所

建国記念館は、一九四〇（昭和十五年）年に皇紀二千六百年を記念して、関東新聞社主小白井光治が建築したものである。皇紀とは、明治政府が定めた日本独自の紀元で、神武天皇が即位した年を西暦紀元前六百六十年とし、その年を皇紀元年としたもの。特に昭和十五年は、皇紀二千六百年にあたることから宮城前広場で開催された政府主催の「紀元二六〇〇年式典」をはじめ国内でさまざまな記念行事が繰り広げられた。幻のオリンピックと呼ばれる第十二回東京

大会や、チケットの販売までされたが中止となった日本万国博覧会などもそのひとつ。まさに国を挙げての一大行事だったといえる。

昭和城ともいべき建国記念館は、内部に茶室や懐古園を模した庭園、二宮尊徳や蒲生君平の石像が建てられていた。その場所は現在の栃木県総合文化センターの南側。史料が乏しくその詳細、消息は不明だが三層の天守閣に石垣を巡らした豪壮な建物だったという。

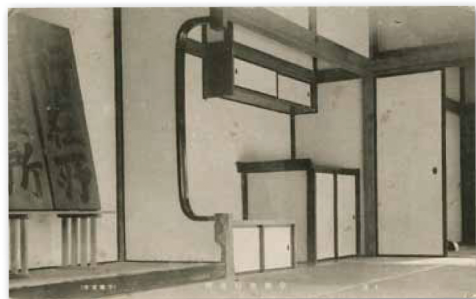
史跡宇都宮行在所は、明治天皇が一八七三（明治九）年六月の東北巡幸と一九七八（明治十四）年八月の奥羽・北海道巡幸の際、行在所にあてられた豪商鈴木久右衛門邸に宿泊したことを記念して指定された史跡である。行在所とは耳慣れない言葉だが、天皇が外出した際の仮の御所を指し、一時的な宮殿として使用された施設を指す。明治天皇は、宇都宮城址で練兵を展覧したのち行在所に入った。鈴木邸の日本庭園づくりの庭がことのほか気に入ったと伝えられる。

宇都宮行在所は、一九三三

（昭和八）年十一月二日、文部大臣鳩山二郎名で国史跡指定が行われた。管理者は宇都宮市があった。しかし、太平洋戦争末期の宇都宮空襲により全焼。今は跡地に向明児童公園が開設され、「史蹟行在所向明館の碑」の標柱が残るだけである。



現在は石碑と標柱だけが建つ
向明児童公園



宇都宮行在所の表札が残る邸内